

九州ブロック国体 派遣報告書

令和4年8月29日(月)
報告者：隈元 ゆみこ

派遣期間：8月26日(金)～8月28日(日)

場 所：宇土市民体育館(27、28日)

◆担当ゲーム

8月27日(土) 少年女子予選リーグ 佐賀 VS 沖縄

CC：隈元 U1：下田(長崎B級) U2：江上(熊本B級)

8月28日(日) 少年女子2位リーグ 熊本 VS 沖縄

CC：御手洗(大分S級) U1：隈元 U2：樋口(大分A級)

◆PGC

<8月27日>

- ・チームについて(佐賀については、1戦目を観戦してのスカウティングから。沖縄については、情報がないため、メンバー表から)
- ・事前にメールにて配布したPGC資料をもとに、映像を含めて、ベーシックなメカニクス、シンプルなプレイコーリング、処置ミス0に向けての確認
- ・A級研修会における重点ポイントの確認(ポジションアジャスト、ファウルの事実の確認、EOQ/EOGの重要性)
- ・TOとの協力

<8月28日>

- ・3POを実践するにあたって、基本事項の確認
- ・プライマリの理解とベーシックの徹底
- ・チームについて、持っている情報や2位リーグ1戦目を見ての情報共有
- ・勝敗の位置付け(4位決定戦：勝ったチームが本戦への出場権を得られる。)
- ・3人での協力、TOとの協力

◆担当ゲームについて

<予選リーグ 佐賀 vs 沖縄>

沖縄は初戦、佐賀は2戦目ということで、佐賀がいい流れの中で始まったゲームとなった。佐賀ベンチからは終始、沖縄のSCRに対して、コーチやベンチからのアピールの声はあったが、そのノイズに惑わされることなく、それぞれがしっかりとプレイを捉えられたことはよかった。一方で、SCRに対しては、技術も上がってきているので、Red側もしっかりとした判定基準を持っておく必要性を更に感じた。トラベリングに関して、ゲーム序盤でしっかりと示せたこともよかった。Primaryからのcallがあった方がよかったケースがいくつかあったが、SecondとしてAngleを持っているRefが判定したことで大きなトラブルもなくゲームを終えることができた。

<2位リーグ 熊本 vs 沖縄>

出だしから熊本がいい入りを見せ、それを沖縄が追いかけるという展開のゲームであった。残り1枠の出場権がかかっており、どちらも一歩も譲らないという中、クルーでオービナスなものに対して判定を積み重ねることで、ゲームはクリーンに、よりタフなゲーム展開となっていった。PGCで確認していた、ゾーンDefにおけるローテーションや、3Qあたりから仕掛けてくるDefに対するC to C、エッジ部分の協力などベーシックを意識していくことで、クルーワークを発揮することができた。見えないAngleは見えてい

る Ref がいるという部分では、そのことにより助かったケースがいくつかあった一方で、Primary としてのプレイの捉え方、ポジションアジャスト、決断が必要であった。

◆ゲーム後の振り返り

<予選リーグ>

- ・大きな取りこぼしはなく、Primary が見えていないものは、Angle をとれている Ref が、判定につながられていた。その一方で、Primary としてどうポジションアジャストすべきだったか？
- ・沖縄の SCR に対して、佐賀ベンチからの声は一試合を通してあったが、クルーでしっかり目を当てて、判定（今回の場合、No call という判定）につなげることができていた。イリーガルとして捉えるには至らないというクルーの見解であったが、SCR に関しては、今後、自分自身、もっと勉強していかなければならない部分だと感じたゲームでもあった。
- ・ローテーションのタイミングが遅れてしまう場面については、クローズダウンポジションから少し離れた位置からスタートしているような場面が見受けられた。クローズダウンポジション、ピンチ、バックペダルなどをもっとうまく活用すると良いと感じた。

<2位リーグ>

- ・オフボールやセンター同士のマッチアップがキーとなるゲームであったが、CC を中心に、常に情報共有しながらゲームを進めることができた。
- ・Primary として判定すべきケースを T から Second で call してもらったケースについては、やはりプレイの捉え方、Ref-D 含め、早い決断が必要なケースだったと感じた。
- ・見えない Angle を無理していかず、見えている Ref がしっかりと判定につなげることで、3PO の良さが発揮できた。
- ・オポジットサイドのクロックが止まっており（ショットクロックは正常に動いていた）、ゲームを止めて修正した場面で、その再開方法について、テーブル側のクロックに合わせた（テーブル側のクロックは動いていた）のであれば、ショットクロックを1秒修正して始めるべきだった。（両方のクロックが止まっていたら、ショットクロックに合わせてマジックを使う場面）

◆全体を通して

コロナ感染拡大防止や3会場に分かれていたこと、A級研修会であったこともあり、一部の方々とはお会いすることができませんでしたが、県内メンバーと行き帰りの道中等でいろんな話を聞いたりすることができたり、他県 Ref のの方々とのコミュニケーションなど、コートだけでなくそれ以外の部分でも刺激を受けた2日間でした。担当した試合を通しての自分自身の Ref としての課題、試合前後の MTG や試合中におけるクルーや TO とのコミュニケーションなど、まだまだ自分自身が伝え方や言葉選び、具体性など学んでいかなければならないことは多くあると感じた2日間でもありました。自分自身のレベルアップのためにも、そして、県内や九州のレベルアップのためにも、引き続き、自己研鑽を重ねていきます。

今回の派遣にあたり、大変お世話になりました熊本県バスケットボール協会の皆様、A級研修会に来ていただいた JBA 講師の方々、九州ブロック審判委員長福岡様、そして、参加に当たってご配慮いただきました鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝し、九州ブロック国体派遣の報告といたします。ありがとうございました。